

第44回ITER 機構職員募集説明会でのQ&A

1. 日時・場所

平成22年11月30日(火)～12月3日(金)

北海道大学学術交流会館(第27回プラズマ・核融合学会年会 展示会場)

2. 来訪者:約20名

3. 説明概要:

第27回プラズマ・核融合学会年会の展示エリアにおいて、来訪者に核融合、ITERなどに関する資料を配布し、ポスターなどを用いて説明するとともに、ITER機構職員募集および登録の案内を行った。(ITER協力調整グループ 安東)

4. 主なQ&A

Q:ITERが建設されるカダラッシュはフランスのどこにありますか？

A:ITER建設地のカダラッシュは、南仏プロバンス地方にあります。最寄りの国際空港はマルセイユ・プロバンス空港です。マルセイユ・プロバンス空港からカダラッシュまでは70 kmほどあり、車で約1 時間程度かかります。ITER建設サイトは、フランス原子力庁(CEA)のカダラッシュ研究センターに隣接しています。カダラッシュの近くの町としては、南西方向に40 kmほど離れたところにエクサンプロバンス、また北方向に20 kmほど離れたところにマノスクがあります。

Q: 現在、ITER 機構で働いている日本人は何人ですか？

A: ITER 機構の日本人職員は2010年11月末現在で、専門職員が24人、支援職員が7人です。また、専門職員に採用が内定している人が2人います。日本人専門職員の割合は全体の8%程度で、もっと多くの日本人がITER 機構職員に応募し、ITER 機構で働いてくれることを願っています。

Q:ITERは建設が始まったと聞きましたが、どのような建屋の工事が始まったのでしょうか？

A:2010年8月からITER 建設サイトでの建設活動が本格的に始まりました。8月はじめには、トカマク本体機器を収納するトカマク複合建屋ピットの掘削作業が開始されました。また、現地でポロイダル磁場コイルの巻線作業を行うための建屋(PF 建屋)の敷地レベリング作業も行われました。9月末にはPF 建屋コンクリートの打設が開始され、ITER 機構本部ビル(アネックスビルディング)の基礎工事も開始されました。



写真左:PF建屋コンクリートの打設作業(手前)とトカマク複合建屋ピットの掘削作業(奥)の様子

写真右:ITER機構本部ビル(アネックスビルディング)の基礎工事の様子

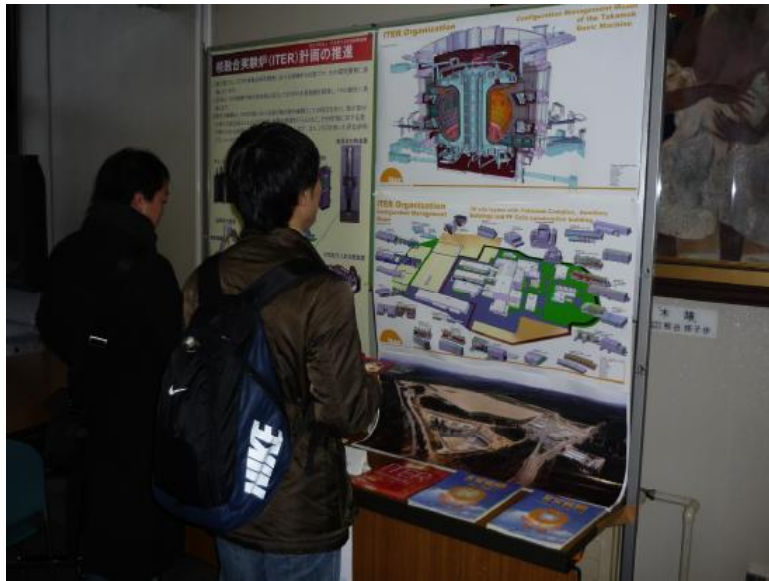
Q:ITER機構にはポスドク制度はないのでしょうか？

A:ITER機構には、モナコ公国/ITERポスドク・フェローシップという制度があります。

ITER計画の参加極またはモナコ公国の国籍を有し、博士号取得後約3年未満あるいは近く取得予定の若手研究者を募集します。プラズマ物理やプラズマ計測、核融合工学の幅広い分野を対象としています。採用されるのは5人となっています。採用されるとITER機構の専門職員となります。任期は2年です。現在、日本から1名が採用されています。ポスドク・フェローシップの募集案内もITER機構ホームページに掲載されます。

Q:ITERの活動状況に関する最新情報を得るにはどうすればいいのでしょうか？

A:ITERの活動状況に関する最新情報を得るには、まずITER機構のホームページ (<http://www.iter.org/default.aspx>) をご覧下さい。ITER機構では、週に一度程度、ITER Newslinesをホームページに掲載しています。ここには、ITERプロジェクトに関するさまざまな活動が紹介されており、今まさにITERで起こっていることを知るのに非常に役立ちます。また、ITER機構ホームページでは、ITER機構職員募集に関する情報もご覧になれます (<http://www.iter.org/jobs>)。ここには現在募集中のポストが掲載されており、応募を希望する場合は、募集ページの案内にしたがって応募のページへ進み、ウェブ上で必要事項をインプットして、オンラインで応募するようになっています。



第27回プラズマ・核融合学会年会の展示エリアの様子

以上